

トピックス 鉄道構造物等設計標準(耐震設計)に関する講習会を開催しました

鉄道総研は、鉄道構造物等設計標準(耐震設計)の改訂を受けて、講習会を開催しました。

平成24年7月に「鉄道構造物等設計標準(耐震設計)」が改訂されました。従来の設計標準の発行から既に10年以上が経過しており、この間、我が国では地震観測網の発達により多くの貴重な地震記録が得られるとともに、構造物の耐震設計に関する新しい知見が蓄積されてきました。また、国際規格を始めとして国内外で、いわゆる性能規定化の動きが活発化しました。このような背景を踏まえ、国土交通省の指導により、鉄道総研を事務局とする「耐震設計標準に関する委員会」(委員長:佐藤忠信神戸学院大学教授)が設置され、最新の研究成果を踏まえた種々の検討が精力的に進められました。

また、通達を目前に控えた平成23年3月に、東北地方太平洋沖地震が発生しました。これまでの設計地震動の規模をはるかに上回る地震であったことから、国土交通省に「鉄道構造物耐震基準検討委員会」(委員長:佐藤忠信神戸学院大学教授)が設置され、検証作業を行い、改訂案に大きな問題がないことを確認しました。

今回改訂された設計標準では、本格的な性能照査型設計法を取り入れました。それに伴い、設計地震動、地盤およ

び構造物の挙動評価方法、照査方法等について見直しを図るとともに、新たに土木構造物上の付帯施設の応答値の算定方法なども取り入れました。また、地震随件事象などに対する配慮など、耐震構造計画の充実も図りました。

これを受けて、平成24年10月25日~26日および平成24年11月1日~2日に講習会を開催し、上記設計標準の考え方や内容について、その背景も含めて解説するとともに、設計標準に基づく照査例や照査プログラムについても紹介しました。



トピックス 「リニアモーター推進高速鉄道研究開発50周年記念講演会」を開催しました

鉄道総研は、平成24年11月30日に「リニアモーター推進高速鉄道研究開発50周年記念講演会」を開催しました。

平成24年は、昭和37年に旧日本国有鉄道 鉄道技術研究所(以下、鉄道技研)においてリニアモーターカーの研究開発が始められてからちょうど50年となります。

そこで、これまでの鉄道技研および鉄道総研での研究開発を振りかえり、多くの先輩方によって築きあげられた技術成果を総括するとともに、今後の若手研究者に技術継承していく場として、記念講演会を開催しました。

講演会は鉄道総研国立研究所の講堂で行われ、理事長垂水尚志による挨拶の後、「リニアモーター開発の歩み」(企画室次長 岩松勝)、「鉄道総研におけるリニア研究開発と今後の展開」(浮上式鉄道技術研究部長 長嶋賢)の講演があり、今後は浮上式鉄道の基礎研究を継続しつつ、在来方式鉄道へのリニア技術の応用研究を強力に進め、成果を相

互にフィードバックして研究開発を進めていきたい旨の表明がありました。参加者は175名で、主な参加者は、来賓ほか、鉄道技研および鉄道総研にて浮上式鉄道開発に関与した関係者、鉄道総研役員でした。



トピックス 「鉄道技術推進センター講演会」を開催しました

鉄道総研 鉄道技術推進センターは、「平成24年度 鉄道技術推進センター講演会」を開催しました。

「鉄道技術推進センター講演会」は、鉄道技術推進センター会員を主な対象に、同センターの活動を理解していただくための情報発信の場として、平成15年度から年1回、全国の主要都市で開催しています。平成24年度は札幌、大阪、福岡、仙台の4会場において、「鉄道の安全・安定輸送を支援する人間科学技術」と題し、鉄道総研 人間科学研究部の研究員による講演を行いました。4会場合わせて525名の方にご聴講いただきました。



【開催日・会場】

平成24年10月18日(木) 札幌
平成24年10月23日(火) 大阪
平成24年10月25日(木) 福岡
平成24年11月 1日(木) 仙台

【講演内容】

「指差喚呼のエラー防止効果と指導法」

人間科学研究部 安全心理研究室
研究室長 井上 貴文(大阪・仙台会場)
主任研究員 重森 雅嘉(札幌・福岡会場)

「リスク管理と安全風土評価」

人間科学研究部 安全性解析研究室
研究室長 宮地 由芽子

「運転士の異常時対応能力向上プログラムの実用システム」

人間科学研究部 人間工学研究室
研究室長 小美濃 幸司(札幌・大阪・仙台会場)
副主任研究員 遠藤 広晴(福岡会場)

「ダイヤ乱れ時の利用者への案内放送の改善」

人間科学研究部 人間工学研究室
主任研究員 藤浪 浩平(大阪・福岡会場)
主任研究員 山内 香奈(札幌・仙台会場)